

平成25年度

「全国学力・学習状況調査」

－結果の分析と今後の取組－

大阪市立柴島中学校

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日（水）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。今回の「全国学力・学習状況調査」の結果を、本校の現状の分析、および今後の取組の参考にしていきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・柴島中学校では、3年生84名が実施

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・数学A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・数学B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

- (2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
<ul style="list-style-type: none">・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立柴島中学校

生徒数 84名

平均正答率 (%)

平均無回答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	71.9	58.5	58	36.8
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4	5.4	7.7	21.4
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

結果の概要

平均正答率については、全国および大阪市平均より下回っている。
特に、国語Bについては、大阪市平均より2.5ポイント低く、国語における知識活用力に課題があることがわかる。
平均無回答率は、大阪市平均は全国より総じて高いが、本校の場合、その大阪市平均よりもさらに高くなっている。特に数学B(知識活用力を問う問題)については、全国平均より4.7ポイント高い。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

「学力向上アクションプラン」の具体方策に基づいて取り組みを進めていく。

- ◆ICTを活用した教育の推進
校務支援パソコンを使った情報交換、電子黒板などを使用した授業(社会、国語、理科、美術など)
- ◆小中一貫した教育の推進
小中実務者会議の定期的な実施。英語科と外国語活動との連携(毎週火曜日)。出前授業の実施。生徒会と児童会の交流、部活動体験。小中合同研修会の実施。
- ◆習熟度別少人数授業の実施
国語、数学、英語の3教科で、習熟度別少人数授業を行っている。
国語:言語事項(文法)と書くこと(作文)を中心に取り組み、「書く力」の育成を図っている。
数学:「正の数・負の数」や「文字の式」など、「数と式」の領域において取り組みを重点的に行い、確かな計算技能の定着をめざしている。
- ◆英語教育の強化(英語イノベーション)
英語教育重点校の指定を受け、小中9年間を見通した英語教育を強化実施していく。毎週火曜日には本校英語科教員が小学校に出前授業を行い、英語科における円滑な小中の接続をめざしている。また、C-NETの積極的活用も行っている。定期的に指導主事によるアドバイスなども受け、授業の一層のレベルアップを図っている。
- ◆言語力や論理的思考能力の育成
生徒による発表、討議、レポート作成、ノート記述などの言語活動を、各教科、総合的な学習の時間において取り組んでいる。特に柴中フェスタなどの学校行事などにおいては、生徒の言語活動は一定の成長が見受けられる。
- ◆理科教育の充実
これまでと同様に、実験(理科室での授業)を積極的に取り組んでいる。生徒の理科に対する興味、関心を高めるとともに、科学的な思考ができるようにしている。
- ◆放課後を活用した自主活動の支援
自主學習習慣の定着
学力低位層の生徒に対する家庭学習支援。(課題提供と点検、学校元気アップ事業による放課後や長期休業中の補充学習会の実施)。保護者(家庭)への働きかけ。(学習環境づくり)
- ◆学校・家庭・地域との連携
「学校元気アップ事業」における学習ボランティア支援員の確保。「はぐくみネット」との連携強化
- ◆学校力の向上
経験の浅い若手教員に対するOJT。メンターを位置づけ、支援体制の充実。
研究授業(公開授業)を実施し、授業の検証と改善に向けた向上心の育成。
- ◆学校独自の取り組み
集団づくりとリーダー育成。特別支援教育の充実。

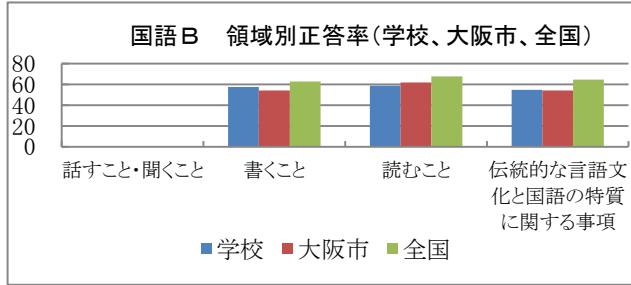
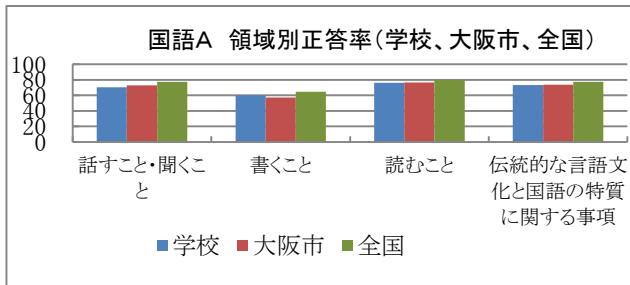
【国語】

結果の概要

平均正答率については全国平均を下回っている。領域別にみると、「書くこと」だけは、A問題、B問題ともに大阪市平均を、それぞれ2.8ポイント、3.0ポイント上回っている。A問題と比して、B問題の正答率が低いことから、知識を応用してじっくりと考えることに課題がある。

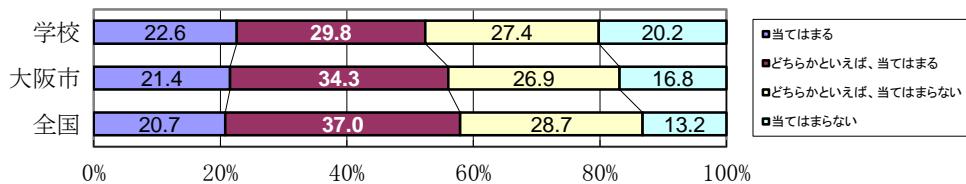
学習指導要領の領域等	A問題	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	4	70.5	73.1	77.6
書くこと	4	60.1	57.3	64.5
読むこと	6	76.2	76.8	80.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	73.5	73.9	77.5

学習指導要領の領域等	B問題	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	0	—	—	—
書くこと	3	57.5	54.0	62.7
読むこと	8	58.9	61.9	67.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	54.8	54.2	64.6

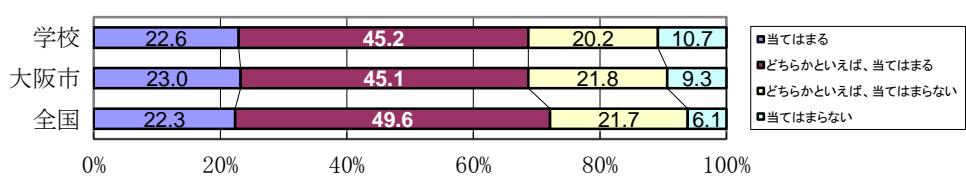


国語に関する「生徒質問紙」

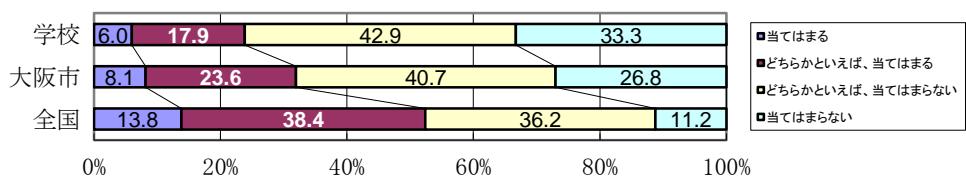
I 53	II 52	III 63
国語の勉強は好きですか		



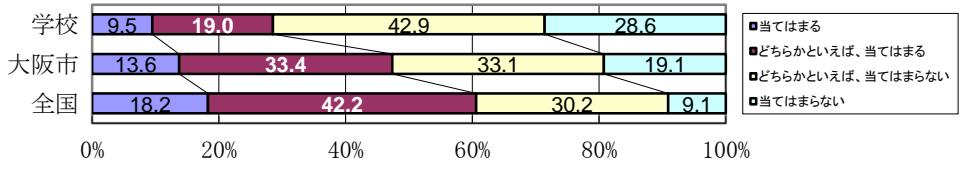
I 55	II 54	III 65
国語の授業の内容はよく分かれますか		



I 58	II 57	III 68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか		



I 60	II 59	III 70
国語の授業で自分の考えを書きとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか		



成果と課題

全国平均と比べると、国語Aでは、「敬語に関する問題」がよくできている。「語句の意味を理解して、文脈の中で適切に使うこと」は、苦手としている生徒が多い。国語Bでは、記述式の問題は比較的できているが、選択式の問題を苦手としている。

今後の取組

「国語の授業の内容はよく分かれますか」の問い合わせには7割の生徒が肯定的な答えをし、全国平均レベルの数字である。3年前の小学校6年時の全国学力調査と比べると、A問題においては全国平均に近づき、B問題では離れている。習得した知識を活用できるよう、発表・案内・報告・編集・鑑賞などの学習を通じて取り組んでいきたい。

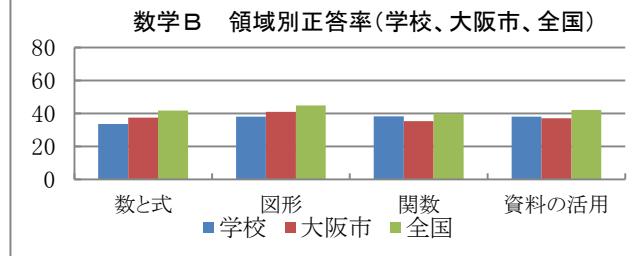
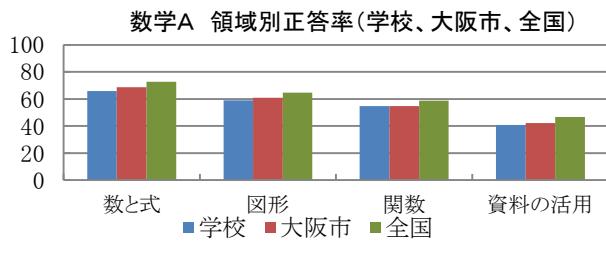
【数学】

結果の概要

平均正答率については全国平均を下回っている。A問題では関数が、B問題では「関数」と「資料の活用」の領域が大阪市平均を上回ることができた。一見すると関数が得意なように見えるが、無回答の割合も関数に関しては高かったので、成績の二極化が進んでいると考えられる。

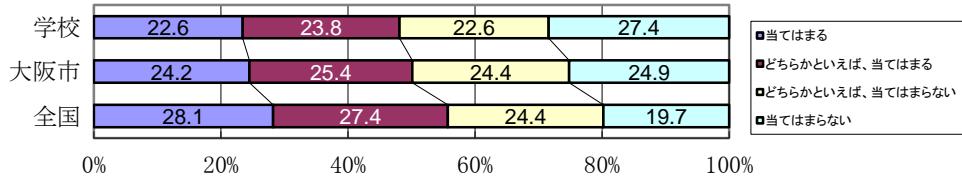
A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	65.8	68.6
	図形	12	59.0	60.8
	関数	9	54.8	54.7
	資料の活用	4	40.8	42.3

B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	33.6	37.6
	図形	2	38.1	41.0
	関数	6	38.3	35.4
	資料の活用	3	38.1	37.1

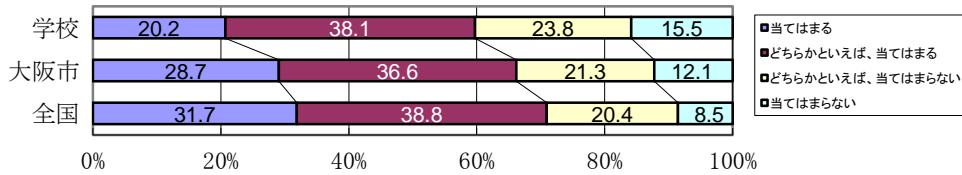


数学に関する「生徒質問紙」

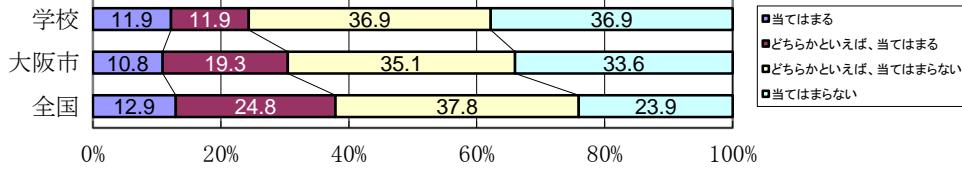
I 73	II 62	III 73
数学の勉強は好きですか		



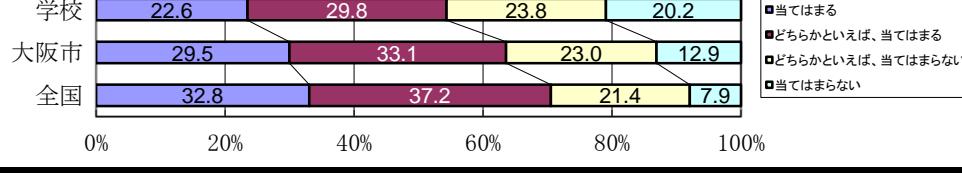
I 75	II 64	III 75
数学の授業の内容はよく分かりますか		



I 78	II 67	III 78
数学の授業で学習したこと を普段の生活の中で活用でききないか考えますか		



I 81	II 70	III 81
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか		



成果と課題

図形に関する問題は、全国平均との差は小さく、得意としている生徒が多いことがうかがえる。一方、無回答の割合が全国平均と比べて、A問題では2.4ポイント、特にB問題では4.7ポイント高く21.4%になることが挙げられる。

今後の取組

3年前の小学校6年時の全国学力調査と比べると、A問題で全国平均との差が拡大し、B問題で全国平均以上あったものが、今回は36.8%となり全国平均を4.7ポイント下回っている。「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」の問い合わせには52%の生徒が肯定的ご回答をしているが、全国の70%と比べると低い。公式やきまりをきちんと理解させ、どんな問題に対しても、最初から投げ出さず、最後までじっくり取り組む姿勢を身につけさせたい。

(3)

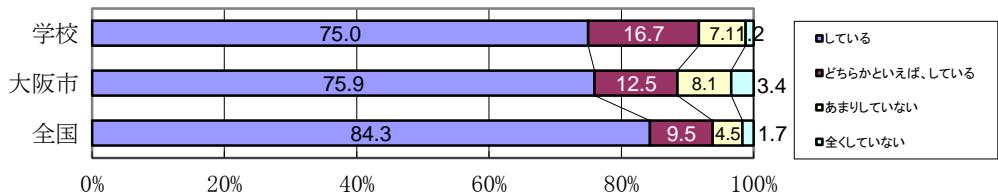
基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

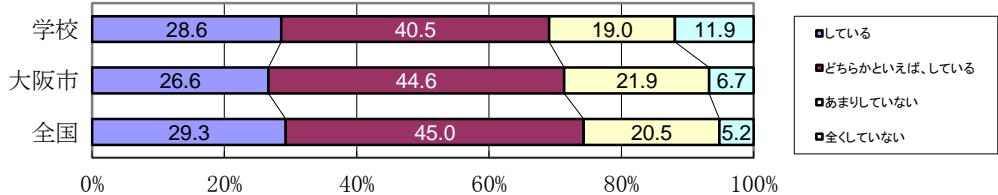
全項目にわたって、肯定的な回答が全国平均を上回ることはほとんどない。特に、「自分には、よいところがあると思いますか」という自尊感情を問う設問については、肯定的な回答の割合が45%で、全国と比べて21ポイントも低い。

質問番号	質問事項
------	------

I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 45
学校の規則を守っていますか		



成果と課題

「学校の規則を守っていますか」という設問に対して、92.9%の生徒が肯定的な回答をしていることは、本校の成果である。一方自尊感情を問う設問(I 6 II 6 III 6)に対しては、過去5年間で下から2番目の低さで、本校の新たな課題である。(H24 64.5%、H23 54.2%、H22 42.6%、H21 53.4%)

今後の取組

生徒一人一人が、学校、学年、学級にとってかけがえのない存在であることが理解できるよう、取り組みを進めていく。今後、生徒が中心になって築き上げていく学校行事(フェスタなど)を通して、生徒が達成感、満足感を高め、自尊感情を向上させられるように取り組みを進めていく。そして、朝食を毎日食べている割合も昨年から下がっている傾向にあるので、「早寝・早起き・朝ごはん」がしっかりと定着できるよう取り組みを進める。

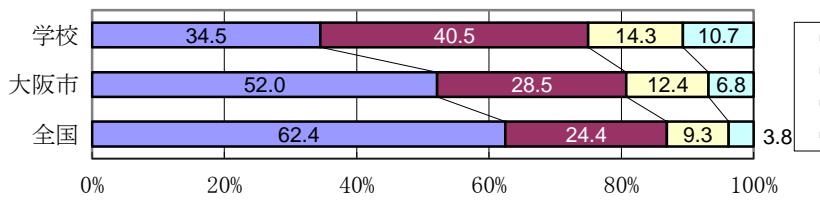
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

全項目にわたり、肯定的な回答をした割合が全国平均を下回る。しかし、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」という設問に対しては、1ポイント全国平均を上回る結果となっている。

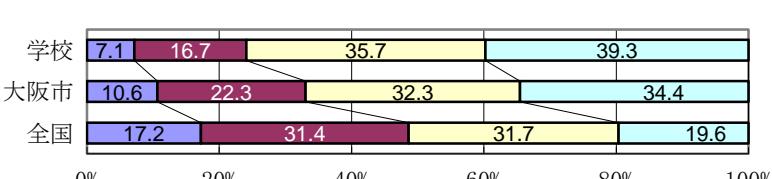
p	質問番号	質問事項
---	------	------

I 30	II 25	III 35
家で、学校の宿題をしていますか		



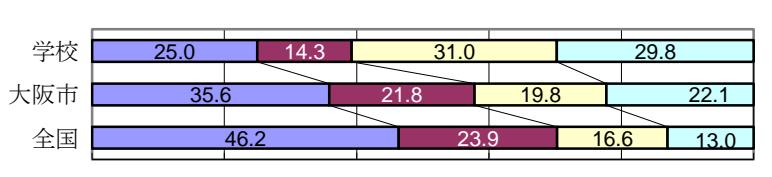
- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

I 32	II 27	III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか		



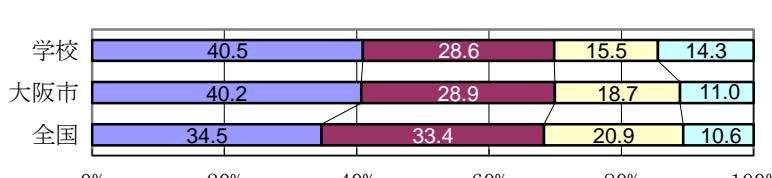
- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

I 56	II 55	III 66
読書は好きですか		



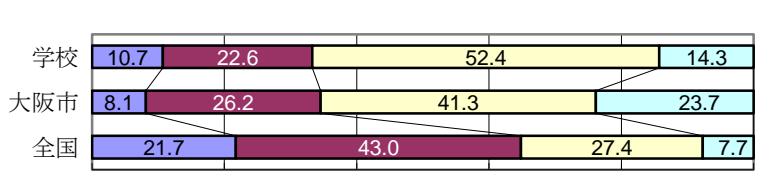
- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

I 52	II 51	III 61
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか		



- 難しいと思う
- どちらかといえば、難しいと思う
- どちらかといえば、難しいと思わない
- 難しいと思わない

I 50	II 48	III 57
普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか		



- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

成果と課題

国語の結果からも明らかであるが、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」などのような自分の表現力については、自信を持っている生徒は一定の成果である。しかし話し合いなど、他者の声に耳を傾けることについては、課題が見えてきた。

今後の取組

「家で、学校の宿題をしていますか」という設問に対して、過去4年間で肯定的な回答は最も低い。(H24 92% H23 77.8% H22 80.9%)全国平均と比べても12ポイント低いので、予習・復習や宿題など家庭学習についてのきめ細かい指導に取り組んでいく。